

<マルセロ・アルバレス（テノール）プロフィール>

世界が認める当代最高のテノール歌手の一人、マルセロ・アルバレスは、メトロポリタン歌劇場、スカラ座、コヴェントガーデン・ロイヤル・オペラハウス、パリ国立オペラ座（オペラ・パスティエユ）、ミュンヘンのバイエルン国立歌劇場、ウイーン国立歌劇場、ブエノスアイレスのコロン劇場など、世界のほぼすべての一流歌劇場に出演し、絶賛を博している。『リゴレット』のマントヴァ公爵、『ランメルモールのルチア』のエドガルド、『ウェルテル』、『ロメオとジュリエット』、『ファウスト』のタイトルロールなど、リリックテノールとしての国際的な名声を築いた後、近年では『イル・トロヴァトーレ』のマンリーコ、『ルイザ・ミラー』のロドルフォ、『仮面舞踏会』のリッカルド、『トスカ』のカヴァラドッシ、『カルメン』のドン・ホセ、『アイーダ』のラダメス、『アドリアーナ・ルクヴール』のマウリツィオ、『アンドレア・シェニエ』のタイトルロールなど、リリコ・スピントのレパートリーにおいて最高の賞賛を得ている。

2011年/2012年シーズンは、スカラ座での『薔薇の騎士』、『トスカ』、『ルイザ・ミラー』、パリ国立オペラ座での『運命の力』、トリノ王立歌劇場での『トスカ』、メトロポリタン歌劇場での『アイーダ』、ベルリン・ドイツ・オペラでの『ルイザ・ミラー』、ロイヤル・オペラハウスでの『オテロ』など、多くの歌劇場への出演が予定されている。

アルゼンチンのコルドバ出身のマルセロ・アルバレスがクラシック音楽を学び始めたときにはすでに20代で、実業家として成功を収めていた。オペラ歌手の道をあゆむ決断を下したアルバレスは、1994年、経営していた工場を売却、アルゼンチンを離れてイタリアに移住した。1995年、ヴェネツィアのフェニーチェ歌劇場で『夢遊病の女』のエルヴィーノ役を歌い、プロデビューを飾る。その後、2年半という短い期間で国際的な名声を獲得。トリエステのジュゼッペ・ヴェルディ歌劇場で初めて『リゴレット』のマントヴァ伯爵役を歌う。同じマントヴァ伯爵役で、1997年6月、トゥールーズでフランスでの初舞台を踏んだアルバレスは、同年8月にはアレーナ・ディ・ヴェローナでのデビューを果たす。アルバレスはまた、ハンブルク国立歌劇場、ジェノヴァのカルロ・フェリーチェ歌劇場、ヴェネツィアのフェニーチェ歌劇場で『椿姫』のアルフレード役を歌う。ビルバオでの『連隊の娘』（トニオ役）はスペインでの初舞台となる。1997年春、ジェノヴァのカルロ・フェリーチェ歌劇場で、マスネの『ウェルテル』のタイトル

ロール役に初挑戦。ボローニャ歌劇場で初出演した『清教徒』のアルトゥーロ役は万雷の拍手を受ける。1997年/1998年シーズンの重要な初出演作品としては、ブエノスアイレスでの『リゴレット』、ブリュッセルでの『ウェルテル』、スカラ座での『シャモニーのリンダ』、ロンドンでのエイジ・オブ・エンライトメント管弦楽団との共演、ベルリン国立歌劇場でのクラウディオ・アバド指揮による新演出『ファルスタッフ』などが挙げられる。また、コヴェントガーデン・ロイヤル・オペラハウス（バーデン・バーデンおよびロイヤル・アルバートホール）、ウイーン国立歌劇場、パリ・オペラ座の『椿姫』公演にデビュー。北米での初出演となったのは、1998年11月、メトロポリタン歌劇場で行われたジェイムズ・レヴァイン指揮、フランコ・ゼフィレッリの新演出による『椿姫』公演である。アルバレスはベルリン・ドイツ・オペラとフィレンツェにおける新演出公演にも出演する。また、実質的なコヴェントガーデンでのデビューとなったのが、2000年の『ホフマン物語』であり、同年、ミュンヘンのバイエルン国立歌劇場の新演出『ファウスト』にも出演を果たすが、どちらもアルバレスにとって初めての役柄となる。

こうした10年にわたる国際的なキャリアの中で、アルバレスは主にリリックテノールとしてのレパートリーを不動のものとする。再びメトロポリタン歌劇場に出演したアルバレスは『リゴレット』、『ランメルモールのルチア』、ルネ・フレミングを相手役とする『マノン』に出演する。ルネ・フレミングはパリ・オペラ座の『マノン』でもアルバレスの相手役を務める。この時期にコヴェントガーデンでアルバレスが歌った他の役柄としては、マントヴァ公爵、エドガルド、ウェルテルが挙げられる。スカラ座にはリッカルド・ムーティ指揮の『椿姫』（2002年）に出演。同じくスカラ座には、ドニゼッティの『ルクレツィア・ボルジア』（ジェンナーロ役）や『リゴレット』にも出演する。『ファウスト』での初登場以来、バイエルン国立歌劇場にもたびたび出演し、『ランメルモールのルチア』、『椿姫』、新演出『ロメオとジュリエット』（初出演は2004年）、『ウェルテル』（2006年）と続く。また、ウイーン国立歌劇場では新演出『ウェルテル』（2005年）の主演を務める。ナポリのサン・カルロ歌劇場（『ランメルモールのルチア』、『ファウスト』、『マノン』）や、東京にもたびたび招かれている（『ランメルモールのルチア』、『リゴレット』、『椿姫』、リサイタル）。トゥールーズのキャピトル劇場とは特別な結びつきがあり、『リゴレット』、『ランメルモールのルチア』、『ウェルテル』など、数多くの公演に出演し、ネモリーノ役で『愛の妙薬』に初出演したのもこの劇場である。2004

年、『ランメルモールのルチア』でシカゴ・リリック・オペラに初出演。ブリュッセルのベルギー王立歌劇場とバルセロナのリセウ大劇場への初出演は『リゴレット』公演である。

2003年、マルセロ・アルバレスは初めて『ルイザ・ミラー』のロドルフォ役を歌う。この出演によってリリコ・スピントのレパートリーが加わる。同年、スカラ座で『ラ・ボエーム』に初出演。その後、2005年にはコヴェントガーデン・ロイヤル・オペラハウスにおいて初めて『仮面舞踏会』のリッカルド役を歌う。

これに続く重要なロール・デビュー作品は、2006年のパルマ王立歌劇場での『イル・トロヴァトーレ』（マンリーコ役）と、ロイヤル・オペラハウスでの新演出『トスカ』（マリオ・カヴァラドッシ役）である。このときの『トスカ』の共演者はアンジェラ・ゲオルギュー、ブリン・ターフェル、指揮はアントニオ・パツパーノである。2007年にはトゥールーズで『カルメン』のドン・ホセ役がレパートリーに加わった。アルバレスはこれらの役柄を世界中で歌い続けていくことになる。たとえば、『ラ・ボエーム』のロドルフォ役はパリ、ロンドン、ニューヨーク、チューリヒ、ヴェローナで。マドリッドやバレンシアでのデビュー公演では『ルイザ・ミラー』のロドルフォ役。ロンドン、チューリヒ、ニューヨークではマンリーコ役、ベルリン、ヴェローナ、ローマ、ニューヨークではカヴァラドッシ役、パリ、マドリッド、ベルリン、チューリヒでは『仮面舞踏会』のリッカルド役、フィレンツェ、ロンドン、ニューヨーク、さらにオランジュ野外オペラ祭では『カルメン』のドン・ホセ役。

マルセロ・アルバレスの2009年/2010年シーズンの幕開けとなったのは、メトロポリタン歌劇場でのリュック・ボンディの新演出、ジェイムズ・レヴァイン指揮による『トスカ』である。このシーズン、アルバレスはさらに2つの重要な役柄をレパートリーに加えた。すなわち、パリのオペラ・バステューユでの新演出『アンドレア・シェニエ』（ダニエル・オーレン指揮）のタイトルロールと、コヴェントガーデン・ロイヤル・オペラハウスでのデイヴィッド・マクヴィカーによる新演出『アイーダ』（ニコラ・ルイゾッティ指揮）のラダメス役である。アルバレスはまた、トリノ王立歌劇場でも『アンドレア・シェニエ』に出演。ベルリン・ドイツ・オペラでは『仮面舞踏会』、チューリヒ歌劇場では『イル・トロヴァトーレ』に出演する。2010年5月にはトリノ王立歌劇

場で『ラ・ボエーム』のロドルフォ役を歌う。また、同歌劇場と共に東京でも『ラ・ボエーム』公演を行う。さらにバレンシアではエリーナ・ガランチャを相手役に『カルメン』（ズービン・メータ指揮）を演じる。2010年夏には、アレーナ・ディ・ヴェローナで『イル・トロヴァトーレ』と『カルメン』を歌う。

2010年/2011年シーズンのアルバレスは、チューリヒ歌劇場で『トスカ』を、メトロポリタン歌劇場で再び『イル・トロヴァトーレ』と『トスカ』を、そしてオペラ・バステューユで『ルイザ・ミラー』のロドルフォ役を歌う。ロール・デビューとなるのが、スカラ座での新演出『アッティラ』のフォレスト役。さらに、再びバレンシアで『アイダ』と『トスカ』を歌い、2011年夏のアレーナ・ディ・ヴェローナでは『ラ・ボエーム』に出演している。

マルセロ・アルバレスは、ベルリン、ローマ、モスクワ、フランクフルトなどのヨーロッパの大都市やオランジュ野外オペラ祭でソロ・リサイタルを開いてきた。初のソロ・アルバムとなる『ベル・カント（邦題：「デビュー!オペラ・アリア集」）』は1998年秋、ソニー・クラシカル・レーベルからリリースされた。以来、同じくソニー・クラシカルで3枚のアルバムを録音している。すなわち、カルロス・ガルデルのアルゼンチン・タンゴに捧げたトリビュート・アルバム『アルバレス・シングス・ガルデル』、『フレンチ・オペラ・アリア集』、そしてオペラ・アリアの名曲を集めた『テノール・パッション』である。最新作となるヴェルディ・アリアのソロ・アルバムは、2008年にデッカからリリースされた。アルバレスの歌声は、ルネ・フレミングと共演した『マノン』の全曲盤CD（およびDVD）でも聴くことができる。これはパリのオペラ・バステューユでのライブ録音である。また、スカラ座での『ラ・ボエーム』、アレーナ・ディ・ヴェローナでの『トスカ』、コヴェントガーデン、バルセロナのリセウ大劇場での『リゴレット』、ナポリでの『ランメルモールのルチア』、ウィーン国立歌劇場での『ウェルテル』などDVDの収録も数多い。今後のリリース予定としては、ジェノヴァでの『アドリアーナ・ルクヴルール』、パリでの『アンドレア・シェニエ』がある。